

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもデイサービス がじゅまる		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 10日		～ 2026年 2月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18名	(回答者数) 24名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 13日		～ 2026年 2月 9日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども一人ひとりのニーズに合わせた多様なプログラムを提供し、柔軟に対応している。子どもの状態やペースに寄り添い、最適な支援を行える様努めている。	複数の支援員が連携して子どもの様子を観察し、支援方法を随時相談・見直しすることで質の高いサポートを実現している。	子ども一人ひとりの興味や課題に合わせた療育のツールやグッズを更に充実させていきたい。
2	職員間での日々のこどもたちの状況(活動の結果や課題への反応等)の細かな情報共有。	非常勤職員にもブリーフィング時に情報共有を確実に実施している。	常勤職員間では日々の状況が共有しやすいが非常勤職員の場合、勤務時間等の都合上、振り返りや細かな打ち合わせの前に退勤せざるを得ない場面もある。個人情報の観点もあり、メール等での共有にも限界がある。
3	保護者との連携やコミュニケーションが充実しています。	日々の子どもたちの様子を、送迎時に保護者に伝えたり、モニタリング時や来所時に情報共有を行うことで、職員と保護者との信頼関係を深めています。Instagramを活用してその日の様子を写真や動画で発信しています。	来年度より、事業所の開放日を設けるなどしながら子どもたちの様子やかかわりを生で見てもらえる機会を設けて参ります。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の住民や子どもたちとの連携が取れていない。	事業所が創業2年目であることもあり、外部との交流等、自己完結しない取り組みは弱く感じている。	毎年少しずつでも外部との関係性を新たに構築し、定期的なイベントとして開催していきたい。
2	家族支援プログラムが充実していない。	家族支援プログラムや家族が参加できる研修会の機会が少ない。	ペアレントトレーニングの一貫として保護者の研修会や勉強会等の機会を設けたり、保護者同士の交流の場を検討していく。家族向けの情報提供や相談の場を設ける。
3	保護者の方へ非常時などへの対応(緊急時、感染症など)に対する周知・発信不足。	防災への取り組みや緊急時の対応は作成しているが、契約時のみの説明に留まり周知機会が不足している。	防災への取り組みや緊急時の対応に関しては、内容の確認のもと保護者へ周知していく。